

特別企画 第1回水田農業地域における農業工学の技術者育成に関する国際会議・ 第3回世界水フォーラム(WWF3)プレシンポジウム モンスーンアジア水田かんがいの多面的な役割

特集の趣旨

第1回水田農業地域における農業工学の技術者育成に関する国際会議・第3回世界水フォーラム(WWF3)プレシンポジウムモンスーンアジア水田かんがいの多面的な役割(2002年3月19日~21日:京都平安会館および滋賀県琵琶湖ホテル)が、関係者の献身的な努力により、成功裡に終了した。ついては、この会議の状況と成果を広く会員の皆様に紹介する。

これら成果の理解を踏まえ、2003年に開催が予定されているWWF3に向けて、今後の議論の一助としていただきたいと願っています。

1. 水田農業地域の農業工学技術者育成に関する第1回国際会議

増本 隆夫

平成14年3月19日に京都市において、農業土木学会主催で、第1回水田農業地域における農業工学の技術者育成に関する国際会議が開催された。これは、過去3回の準備会議(日本・韓国・台湾の学協会主導)を受けたもので、アジアモンスーン地域の12カ国・地域から38名が参加した。ここでは、この記念すべき国際会議の詳細について報告した。議題は、①水田農業地域における農業工学技術者育成の重要性、②各国における技術者育成の取組み状況、③水田農業地域の学術・技術に関する国際ジャーナルの発刊、④2003年3月日本開催のWWF3への各国の対応、⑤次期開催国等であり、各国の合意事項は、京都宣言2002としてまとめられた。

(農土誌 70 8号, pp 3~6 2002)



水田農業, アジアモンスーン, 技術者育成・認定, 継続教育, 国際会議, 世界水フォーラム

3. 第3回世界水フォーラム(WWF3)プレシンポジウム モンスーンアジア水田かんがいの多面的な役割

山岡 和純

2003年3月にわが国で開催される第3回世界水フォーラム、閣僚級会議などでの国際水議論への積極的な対応を目指して2002年3月、モンスーンアジア水田かんがいの多面的な役割をテーマに滋賀県大津市でプレシンポジウムが開催された。

現代の人類が直面する課題である持続的な循環型社会の構築へ向け、多面的な役割を果たすかんがいに支えられたモンスーンアジア水田稲作の農業社会は、一つのモデルを提示し、地球規模の水と食料の問題を解決するための重要な鍵を握っている。25カ国4国際機関からの参加を得たプレシンポジウムにおける議論を紹介し、第3回世界水フォーラムへ向けた論点の整理を試みる。

(農土誌 70 8号, pp 9~16 2002)



世界水フォーラム, 水田かんがい, モンスーンアジア, 国際水議論, 多面的な役割, 循環型社会

2. 農業工学の技術者育成に関する国際会議と国際学術誌の刊行

佐藤 洋平

モンスーンアジアの12カ国・地域から38名の参加を得て、第1回水田農業地域における農業工学の技術者育成に関する国際会議を京都で開催した。

この会議では、水田農業地域における農業工学の技術者育成の重要性、農業工学分野の領域、農業工学教育プログラムの取組み状況、国際学術誌の刊行、第3回世界水フォーラムなどについて、参加各国・地域の報告を踏まえて意見を交換し、これらを京都ステートメントとしてとりまとめた。水田農業工学に関する諸問題を多角的かつ全体的に扱う国際学術誌を刊行することもそこに謳われた。学術誌の体裁、論文等の投稿規定、執筆要領など、細部を詰めるための会合を早急に行うことが了承された。

(農土誌 70 8号, pp 7~8 2002)



水田農業地域, 農業工学技術者育成, 国際学術誌, モンスーンアジア, 水田農業工学

4. モンスーンアジア水田灌漑の多面的な役割 基調報告

水谷 正一

モンスーンアジアの水田灌漑が有する多面的役割、すなわち生産財としての水の本来の役割以外の「生存のための水」あるいは「生活・文化・環境を支える水」という多面的役割について総括的にとりまとめた。本報の内容は、水田群が有する多面的役割、灌漑システムが有する多面的役割、そして水田灌漑システムの持続性を確保するために必要な対策を議論し、モンスーンアジアでは「生存権的な資源としての水」および「環境権的な資源としての水」が灌漑システムと不可分に結びついていることを示し、灌漑用水が生産財であるとともに公共財の性格を有することを指摘した。

(農土誌 70 8号, pp.17~20 2002)



水田, 灌漑用水, モンスーンアジア, 多面的役割, 稲作, 水文特性, 農村社会

5. モンスーンアジア水田かんがいの多面的な役割 パネルディスカッション

八丁 信正

国際機関の代表およびシンポジウム各セッションの代表者によるパネルディスカッションの概要について報告した。水田灌漑の多面的役割について、小規模の灌漑システムと大規模システムの違いが明らかにされた。また多面的役割の評価にあたっては、正のみならず負の影響評価、水利用の伝統や文化、性の違いを考慮した幅広い観点からの評価、基本的な食糧生産の重要性の再評価、評価の最終的な目的の明確化、評価にあたってのアプローチ、水田灌漑を取巻く状況の違いに応じた評価等について考慮することが重要であるとの指摘が行われた。

(農土誌 70 8号, pp 21~23 2002)



WWF 3, 国際機関, 水田灌漑, 多面的役割, 環境影響評価

6. WWF 3 プレシンポジウムにおける展示とスタディツアー

田中 秀明・高坂 正規

2003年3月に琵琶湖淀川流域で開催される第3回世界水フォーラムに向け、水循環、生物多様性、農村の環境、生活、文化など、アジアモンスーン地域における水田かんがいの多面的な役割に焦点をあてたプレシンポジウムが、本番1年前の2002年3月、滋賀県において開催され、成功をおさめた。

シンポジウム当日、会場と隣接した展示会場において、“モンスーンアジア水田かんがいの多面的な役割”をテーマとする展示が行われた。また、翌日には水田かんがいが持つ多面的な役割の具体的な事例に直接触れるスタディツアーが、滋賀県を舞台として実施された。

(農土誌 70 8号, pp 25~28 2002)



世界水フォーラム, 多面的機能, 灌漑, 滋賀県, 展示, スタディツアー

7. プレシンポジウムから第3回世界水フォーラムへ

進藤 惣治

これまで開催された世界の水問題に関する各種国際会議では、乾燥・半乾燥地の水利用について議論が集中しており、アジアの水利用、特に水田灌漑については議論が行われておらず、世界的な理解度も低い。2002年3月に開催されたプレシンポジウムは、第3回世界水フォーラムに向けて、アジアの水田灌漑に焦点をあてるとともに、アジアから世界の水問題への参加を促す極めて有意義なものであった。

本報では、これまでの国際会議における水問題解決に向けた議論の概要について紹介するとともに、第3回世界水フォーラムへ向けた農業用水分野の課題をとりまとめた。

(農土誌 70 8号, pp 29~32 2002)



世界の水問題, 世界水会議, 世界水フォーラム, 世界水ビジョン, 多面的機能, 灌漑

(報 文)

ガーナ国における農民参加型灌漑施設改修事業の一事例

佐藤 勝正・榊 道彦・オドンコ トーマス アナン
ダウニ プシア ナンブ

開発途上国における灌漑施設の改修事業を実施する場合、農民参加型により段階的に実施することが効果的である。まず事業対象地区の一部で少ない経費により改修工事を実証的に行い、その効果を見極めた上で対象地区全体に対する施設工事に段階的に移行して行くことは、農民の主体性を育む上でも、また農民参加型の水管理を実施する上でも有益であると考えられる。本報では、ガーナ国のアシャマン灌漑事業地区における本格的な施設改修事業の前に、地域の一部において農民参加型の小規模な施設改修を実証的に行い、農民の主体性のもと、水管理および水利費の運用について検討を行った農民参加型施設改修事業の一つの事例を報告する。

(農土誌 70 8号, pp 57~62 2002)



小規模灌漑, 施設改修, 農民参加, ガーナ国灌漑事業地区, 無償資金協力

(報 文)

石狩川水系内水排除事業の歴史的経緯とその特長

滝 俊二・上田 正勝・菊池 一雄

北海道石狩川水系(石狩支庁管内および空知支庁管内)では、昭和50年と昭和56年に発生した大洪水を契機として、地域の再生・発展のため第二次内水排除事業が実施された。

本報は、広大な農地における機械排水事業としては国内有数の規模を誇る本事業を紹介するとともに、機械排水計画の基礎諸元の決定にあたっては「数値モデルシミュレーション解析手法」等の最新の計画技術によったこと、施設等の設計・施工にあたっては既往の稼働実態等を参考にするとともに「近自然工法、調整池の配置、情報関連施設・運転施設の充実、管内クーラー方式のエンジン冷却、ディーブウエル工法」など、最適な設計・工法となるよう配慮した。

(農土誌 70 8号, pp 63~68 2002)



内水排除, 機械排水, 数値モデルシミュレーション解析手法, 無湛水, 排水機場の新たな工法

複写される方に

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外、著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体から許諾を受けて下さい。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接農業土木学会へご連絡下さい。

〒107 0052 東京都港区赤坂9 6 41 乃木坂ビル

学術著作権協会 (TEL : 03 3475 5618 FAX : 03 3475 5619) E-mail : kammori@msh.biglobe.ne.jp